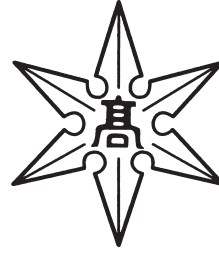


## 校

- 1 妙高山は峨々として 千古の白雪天をつき  
日本海は汪々と 万里の波濤空をうつ  
山水霊なる越の国 学びの友垣一千余
- 2 学と徳とに身をたてて 期するは国家のまき柱  
砂の粒いさごもつもりては みそらに高き妙高山  
水の雫もたたへては そこひも知らぬ日本海
- 3 小善とても勉むべし 小悪とても犯すなよ  
なるとならぬは天なれど 唯一筋に彼の岸へ  
進むぞ我等の務なる 進むぞ我等の覚悟なる
- 4 思へば昔霜台公 能信越をきりなびけ  
七尾城頭月きよく 戦勝の宴たけなはに  
矛盾ほこ横たへてうたひてし 威风ぞ今に芳しき

## 応援歌

- 1 ああ群山に王者たる  
妙高おろし吹きあれて  
我を叱咤す朝な夕  
鍛えし技に 鍛えし技に  
鍛えし技に 敵はなし
- 2 ああ鮫城の森近く  
西窓清き南葉山  
光あふれる母校こそ  
その名も高高 その名も高高  
その名も高高 勝利は我に
- 3 ああ伝統は燦然と  
六華に映ゆる高高の  
健児があぐる勝どきに  
怒濤も和する 怒濤も和する  
怒濤も和する 時は来ぬ



## 歌

- 5 治まる御代の我等には 仁義の兜知恵の弓  
百折不撓の勇氣あり 堅忍不拔の劍あり  
心にむらがる煩惱の 悪魔を払って進みゆけ
- 6 いとも畏し大君の 下したまひし大詔おおみこと  
是ぞ我々学生の 心をてらすます鏡  
眼に万卷の書を読み 胸に千古の理をさとり
- 7 日本やまとの国の国民くにとみの 大和心をふりたてて  
我が大君の御稜威とらげをば 万代までも伝へてん  
是ぞ我等の務なる 是ぞ我等の覚悟なる

(注)

第2次大戦後は、校歌は、従来の6、7節を削り、1、2、4、5、3節の順序で歌っている。

## 高田の四季

- 1 高田の春は爛漫と  
古城を包む春霞  
ああこの地我等が故郷  
頸城平の緑を越えて  
虹がかかるよ妙高山に
- 2 高田の夏は爽涼と  
日本海の波が呼ぶ  
ああこの地我等が故郷  
榊神社の森たそがれて  
南葉の山に半輪の月
- 3 高田の秋はさやくして  
青田の川に紅葉うく  
ああこの地我等が故郷  
森の都も錦をおびて  
鐘がどよむよあの寺町に
- 4 高田の冬はひひとして  
繚乱香る六つの華  
ああこの地我等が故郷  
金谷山頭スキーに暮れて  
雁木に映ゆる町並あかり